

成果情報

スギ・ヒノキのキバチ類による変色被害の回避法						
[要約] キバチ類は、 <u>スギ・ヒノキ</u> に変色被害を起こす。間伐後のキバチ類の大発生を防ぐには、 <u>発生時期の夏場の間伐</u> を避ける。 <u>ヒゲジロキバチ</u> にあっては伐採後二夏目に <u>誘引器</u> による集中駆除を併用し、早期終息を図る。						
総合農林試験場・林業部・育林科	専門	林業	対象	森林保護	分類	指導
資料名：						

[背景・ねらい]

キバチ類による変色被害の発生が危惧されるスギ・ヒノキ間伐林分において、キバチ類の大量発生を回避するための間伐時期と早期終息法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1．キバチ類の種類

スギ・ヒノキ切り捨て間伐林においては、ニホンキバチ、ヒゲジロキバチ、オナガキバチが発生するが、変色被害をもたらすのは、ニホンキバチ、ヒゲジロキバチである。

2．キバチ類の発生時期と間伐時期

キバチ類の発生時期は、ニホンキバチは7月上旬～10月下旬、ヒゲジロキバチは5月下旬～8月上旬である（図1）。これらのキバチ類は新鮮な材を繁殖源として好むことから、5月～10月は間伐を避ける。

3．間伐施業後の誘殺消長

夏場の間伐により、間伐実施当年の一夏目の誘殺数は、前年の誘殺数と比べて減少するが、翌二夏目に大発生する。ニホンキバチの翌二夏目の発生は、11月～2月までの間伐によって、抑制できる（図2）。ヒゲジロキバチにあっては、不明な点が多い（図3）。

4．誘引器の防除効果

伐採木のない通常の状態、ホドロン誘引器によるキバチ類の捕獲は、ヒノキ丸太による餌木の4倍の効果がある（表1）。ヒゲジロキバチの二夏目の大発生には、誘引器の集中的な設置が、早期終息に効果的である。

[成果の活用面・留意点]

- 1．間伐実施により根株の変色から判断してキバチ類の生息密度が高いと思われる林分での、被害抑制方法として活用できる。
- 2．ヒゲジロキバチについての詳細な生態特性を把握する必要がある。
- 3．誘引器の設置は、20m間隔で25器/haを目安とする。

[具体的データ]

誘引器 6 基当たり捕獲頭数

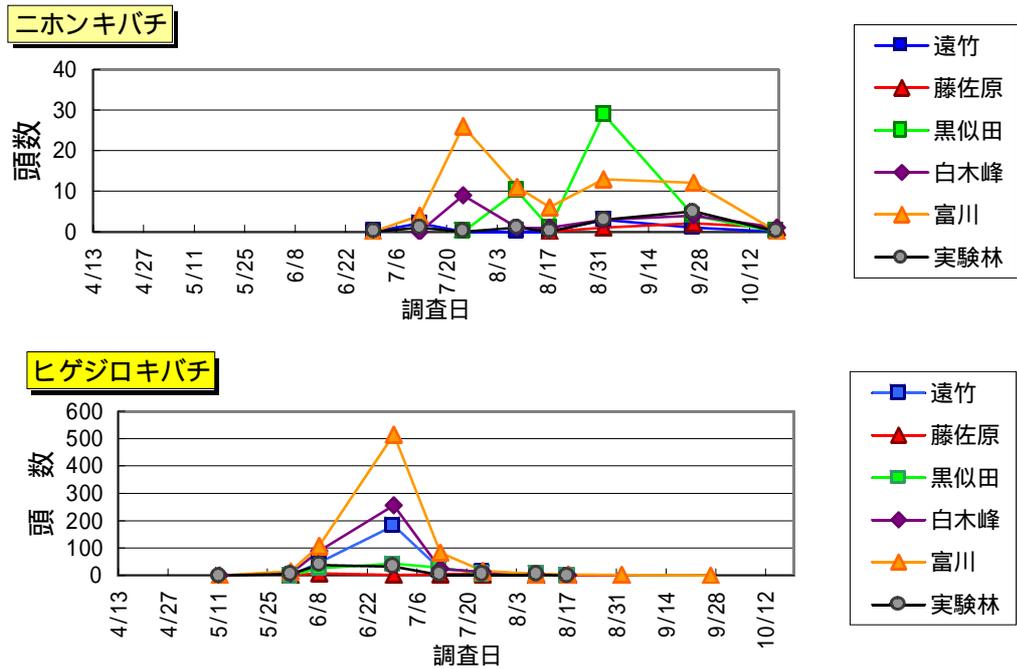


図 1 キバチ類成虫誘殺消長 (2000 年)

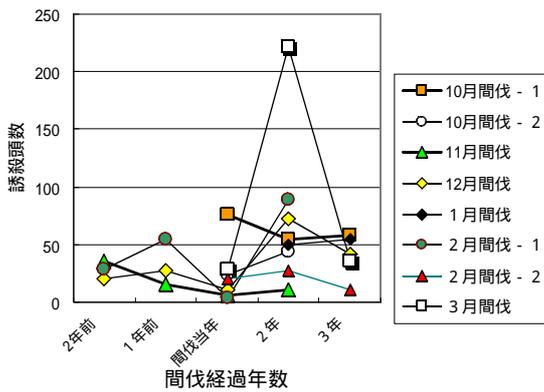


図 2 間伐施業とニホンキバチ誘殺頭数の推移

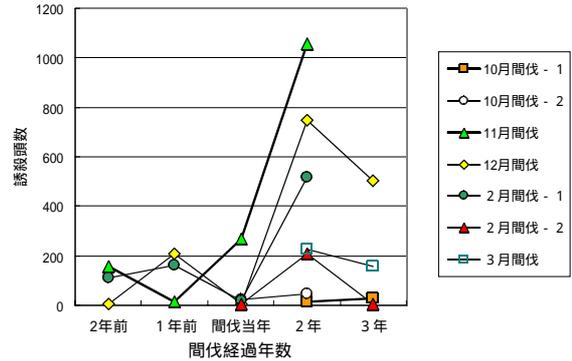


図 3 間伐施業とヒゲジロキバチ誘殺頭数の推移

表 1 ホドロン誘引器によるキバチ類捕獲調査

器 材	捕獲比率%				平均
	2000 年		2001 年		
	白木峰	富 川	白木峰	富 川	
餌 木	31.2	15.6	24.1	15.4	20.0
誘引器	68.8	84.4	75.9	84.6	80.0

[その他]

研究課題名：キバチ類の被害防除技術に関する調査

予算区分：国庫 1/2 (情報システム化)

研究期間：平成 11 ~ 13 年度

研究担当者：吉本貴久雄

既発表論文等：なし